



地球人のすすめ

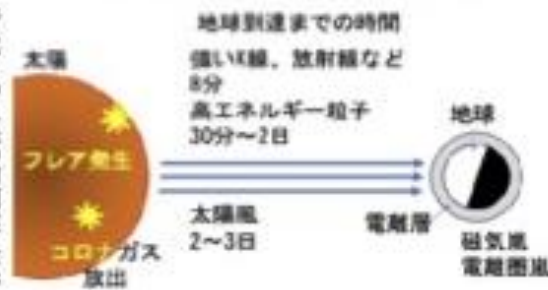
今月の初めから、普段では聞かない大規模太陽フレアが頻繁に発生し話題になっている。北海道や北関東でも、低緯度オーロラが観測され、にわかに関内オーロラツアーも取り立てられている。

太陽は、地球上の全ての生物の重要なエネルギー源である。その太陽の黒点活動が活発になると、巨大フレアが発生する。それに伴い、太陽表面からはX線や紫外線などの電磁波、高エネルギーを有する粒子・ガスなどが放出される。フレア発生から8分後、電磁波は、地球表面に到達する。オーロラ発生のほか、空中では様々な電磁障害が発生する。地球表面は、電離層によって防護されているが、超巨大フレアの場合は、防護網を破られてしまう。超巨大フレアで予想される最悪のシナリオをまとめると次のようになる。スマホの接続障害、防災・消防・警察・タクシー・列車無線に対する大規模障害、カーナビやドローンの制御不良、家電電子機器不調による生活の混乱、低空飛行機群の大气圏突入、地

球規模での燃料機の使用不能、広域での停電の発生等々。

宇宙から地球を観ると、青く輝く母なる水の惑星は、38億年という悠久の長い年月をかけて、巨大

太陽フレア発生時の地球への影響



暗黒のしじまの中にひっそりと佇んでいる。その38億年の間、地球上の生命は、環境の様々な激変にも耐え忍んで、絶滅することもなく生き延びて

きた。我々の祖先の初期猿人は、およそ700万年前にアフリカで誕生し、猿人、旧人を経て現在の人類である新人・ホモ・サピエンスに進化した。ホモ・サピエンスが地球上に登場したのはほんの30万年前のことである。その後、人類は、1万年前に文明を誕生させ、100年前に量子力学を発見した。その量子力学の知識を応用して、地球上に快適なライフラインを構築した。一方では、その量子力学を駆使して開発したA1兵器で、国境を境線で凄惨な戦争を繰り返している。

今、太陽がくしゃみをすれば、地球上の人類のライフラインは、たちまちメタスタブになってしまふ。我々は、極めてデリケートな環境の中で生活していることを知らなければならぬ。「自衛」のことばかり考えているのは、本当の意味の解決策につながる。今こそ我々は、人類の「自衛」として、「地球人」としての自覚を持つべき時ではないだろうか。今回の巨大フレアの出現は、その自覚を促すための絶好の機会だと思う。